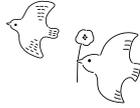


偶数月には1回、「抱樸館を支える会」会員の方にお届けしています

抱樸館を支える会

会報

2025


4月
vol.70

2025年4月1日発行:抱樸館を支える会

困難を抱える若者たち

核家族化や少子高齢化が社会的課題となつてから、すでに30年以上が経ちます。その間、さまざまな要因が複雑に絡み合い、若者たちの生きづらさはより深刻になっているように感じます。

抱樸館では、路上生活を経験した人の割合が減る一方で、家庭環境の問題から逃れてきた人や、発達特性、引きこもり経験など、さまざまな事情を抱える若者たちの姿が目立つようになりました。

社会が変化するなか、次世代を担う子どもや若者たちは、どのような困難や生きづらさに直面しているのでしょうか。

contents

特集「困難を抱える若者たち」

- 特定非営利活動法人 おおいた子ども支援ネットワーク理事長 矢野茂生さんに聞く……………2・3 p
- 若者支援 グリーンコープとして……………4・5 p

■ 北九州 NPO法人抱樸より……………6 p

■ みんなの居場所……………7 p

■ 抱樸館情報・会報誌アンケート……………8 p



「困難を抱える若者たち」の現状と支援について 子ども・若者福祉の現場で精力的に活動する 矢野茂生さんのお話を伺いながら考えていきます。

特定非営利活動法人 おおいた子ども支援ネット理事長
九州若者サポートネットワーク※事務局長

矢野 茂生(やの しげき)さん

大学卒業後、旅人→中学校教員→児童自立支援専門員になる。在職中に大学院で学び、独立したのち法人を設立、現在に至る。プロレス・日本酒・ドキュメンタリー番組・キャンプが好きな57歳



困難は地続き

僕の中で、常に考え続けている大きなテーマの一つが「困難は地続き」という視点です。多くの子どもたちにとって、困難は目の前に突然現れたものではありません。早い子では、お母さんのお腹の中にいる頃から始まっている場合があります。例えば、望まれない妊娠、育児の孤立、いわゆる「ワンオペ育児」など。お母さんたちは、その時々で助けを求め、学校や行政の窓口でSOSを出します。しかし、思ったような支援を受けられない経験を何度も繰り返すうちに、次第に相談することそのものを諦めてしまうことがあります。とはいえ、行政や学校が悪いわけではありません。これらの組織にはそれぞれ「ここまでしかできない」という規範があり、それがお母さんたちが「解決したい困りごと」とマッチしないことが問題なのです。

こうして、いくつもの困難やミスマッチを抱え続けた結果、児童自立支援施設のような場所に流れ着く子どもがいます。

彼らの困難は「その時その場で突然起こった」のではないのです。だからこそ、支援の在り方も「その場限り」ではなく、地続きである必要があると感じています。特に、「孤独」や「孤立」は、地続きの困難に大きく影響していると感じています。

インターネットが普及し、便利で不自由がないように見える時代。SNSやオンラインでのつながりが「実態のある関係」に代わるかのように感じることもあります。が、いざ本当に困ったとき、そのつながりが支えになるのでしょうか？孤独・孤立の中で「困った」を抱え込んでい

るとき、スマホ画面に映る100万円の束に惹かれ、闇バイトに走ってしまう—こうした現実も、理解できない話ではありません。

「助けて」と言うことが特別な行動になっている今の社会。ますます若者たちは声を上げづらく、困難が表面化しにくい状況になっています。

児童自立支援施設での経験から

僕が児童自立支援施設で出会ったのは、中学2年生から17歳くらいまでの「思春期」と呼ばれる時期の子どもたち。特に、僕が所属していた施設の寮には、非行や犯罪などの背景を持つ子どもたちが多くいました。

施設では、彼らが特定の環境の中で日々生活を送りながら、これまでとは異なる希望を抱き、新しい方向へ変わっていく姿を見ることができました。例えば、僕が働き始めた頃の高校進学率は30%でしたが、13年間で96%にまで上昇しました。

思い出深いのは、施設の野球部が全国大会で優勝し、県知事から表彰を受けたときのことです。その場で、ある子どもが「これで悪いことはできんな」とつぶやいたのを覚えています。こうした変化は、規則や指導だけでは生まれえないもの。「社会的な承認」の力がどれほど大切かを痛感しました。

しかし、一方で現実の厳しさにも直面しました。「頑張ろうね」「頑張れるよ」と励まし送り出した子どもが、再び罪を犯して戻ってきたり、さらには少年院に入るケースもありました。青年期になり自死に至る子もいます。具体的には語れないシビアなケースもいくつかありま

した。「なぜこんなことが起こるのか」。施設中での支援と社会との間に大きな隔たりがあることを痛感しました。

一つの結論として感じたのは、「退所後に子どもたちを支え続ける環境が整っていない」ということです。「では、どうすればよいのか？」その答えを深く探るため、40歳のときに大学院に進学しました。

その後、法人として大分市で様々な支援施設を運営することになりました。児童発達センター、放課後デイサービス、自助援助ホーム「こどもシェルター」、おおいた青少年総合相談所など、特定の場所(スポット)における支援を展開しています。これらは、言うなれば「スペシャリティな支援」です。

地続きの困難を防ぐ仕組みをつくる

「地続きの困難」に対応するには、一部の場面やスポットに限った支援だけでは不十分です。そのために必要なのは、支援を「地続き」に、途切れることなく提供できる仕組み。現在進めている「まちづくり事業」は、そのための具体的な取り組みの一つです。

僕らの事業拠点に、多くの大学生が住む一方で、住民の高齢化が進んでいる地域があります。自治会活動は年々縮小し、コロナ禍では「孤独」や「孤立」の問題がさらに深刻化しました。ここに「地域に拓かれた福祉サービス拠点」を構築し、支援と交流の場を生み出します。

具体的には放課後等デイサービス事業を中心に、施設に隣接する平屋家屋を改修した「みんなの家」をつくる。ここでは野菜作りなどの食や文化的な行事や活動、図書館など地域の方々と子どもたちが一緒にデザインし交流できる場をつくります。これは、専門的な福祉サービスを市民活動に一部転換させる試みでもあります。

「みんなの居場所」や「みんなのまち」、いろんな仕組みを校区にひとつ以上、あちこちにつくりたい。より多くの人が地域や子どもたちのことに関心を持ち、関わるきっかけをつくれたらうれしいです。



地域が子どもを育み、子どもが地域を育む「まちづくり事業」のランドスケープデザイン

※九州若者サポートネットワーク(9sapo) こども・若者の居場所、ケアリーバー(児童養護施設や里親などの社会的養護を離れた子どもや若者)の伴走支援、若者の社会参加や就労支援に取り組む九州各地(沖縄含む)の団体を応援する民間ネットワーク



9sapo

グリーンコープは特定非営利活動法人 おおいた子ども支援ネットと協働で「九州若者サポートネットワーク(9sapo)」を設立しました。9sapoは子ども若者支援に取り組む、九州・沖縄の市民団体と活動を応援しています。

2024.4.25 シンポジウム

困難にさらされる子ども・若者たちの現状と未来に向けて
～私たちにできることは何か?～



共生の時代
2024.8月号

第1回「九州こども・若者おうえん助成」 以下4団体に助成金が届けられました

福岡 特定非営利活動法人 そだちの樹

虐待を受け、家庭で安心して暮らせない、施設や里親家庭から自立後、生活が立ちいかない。頼る人もなく、住む場所を失ってしまったなど、居場所を失った子どもたち、若者たちが自分らしく生活できるように、社会とつなぐ活動をしています。

事業内容
■ここライン
家庭に居場所がない若者の電話相談窓口
■ここ食堂
月に一度、食事をしながらみんなが語る場

佐賀 一般社団法人 あまね

重症児・医療的ケア児の支援事業所です。全国初の取組みである多機能型拠点では、医療的ケアが必要な児者の受け入れのために、小児科とショートステイなどを運営しています。「どんなに重い障がいがあっても、生まれてきた地域で最後まで笑顔で暮らせる社会の実現」を目指しています。

事業内容
■児童発達支援放課後等デイサービス・重症心身障害児放課後等デイサービス・生活介護
■重症児テイルーム・共同生活介護型短期入所・診療所 他
■相談支援事業所

熊本 認定NPO法人 トナリビト

親を頼れない10代～20代の若者を対象に、相談窓口や居場所スペース、緊急シェルター、自立支援シェアハウス、ワンルーム型住居等を運営し、幅広い支援を行っています。「自分は愛されるために生まれた！」とすべての子ども・若者が思える未来を目指して活動しています。

■SNS相談窓口
■居場所スペース「おとなりさん」
■緊急シェルター「okioki」
■自立支援シェアハウス「IPPO」
■ワンルーム型住居 他

沖縄 一般社団法人 ある

一人ひとりの「あるがまま」を大切に、実家に頼ることのできない10代のママを孤立させない子育て支援、性教育や命の大切さを伝える活動、SNSを活用した若者への相談支援などを行っています。

事業内容
■アフターケア相談室「にじのしずく」
■10代20代のヒニン(避妊)相談 & 包括的学習
■グリーンワーク・ケア
■10代ママくらぶ
■シェアハウスあるところ
■ばあば保育園 他

若者支援 グリーンコープとして...

2021年から2024年3月までの3年間、抱樸館福岡の館長を務めた早野さん。これまでの経験を活かし、就労支援の現場で奮闘している早野さんにお話を伺いました。



社会福祉法人グリーンコープ
生活再生支援事業福岡県本部

早野 誠さん

2008年、グリーンコープ生活協同組合連合入職。2016年、就労支援の対人スキル習得のため「一般社団法人京都自立支援サポートセンター」へ出向。その後、就労準備支援事業やひきこもり支援責任者、抱樸館福岡館長を経て現在に至る。
二男一女の父親。大の野球好き

支援の現場に飛び込んで

「どんなきっかけや思いでこの仕事を始められたのでしょうか？」

早野: もともと人の世話をするのが好きで、対人支援に興味がありました。そんなときに、京都での就労支援を「勉強してこないか」という話があり、自分から手を挙げました。

「今も大切にされている支援の原点は何ですか？」

早野: 京都にいたときの話です。ある16歳の子がいました。彼の両親は障がいを持っていましたが、彼自身は健常者でした。ところが、小学校・中学校にほとんど通わず、親の世話をしながら育ったんです。

最初に出会ったときはほとんど話さない子でしたが、時間をかけて関わるうちに、少しずつ話してくれるようになりました。「これからどうしたい？」と聞く

と、「高校には行きたい」と言います。それならばと、一緒に勉強を始めて、定時制高校の試験を受ける手伝いをしました。無事に合格し、彼は高校に進学しました。

今でもLINEで連絡を取っています。「元気に頑張っています」と報告してくれるんですよ。こうした若者の成長を見守ることができるのは、本当に嬉しいですね。

信頼関係の築き方

「支援の現場で大切にしていることは何ですか？」

早野: 話を「聴くこと」です。すぐに話してくれない人もいますが、それでも待つことが大事なんです。

たとえば、ある場面緘黙(ばめんかんもく)^{※1}の子どもがいました。最初は「うん」すら言わないし、筆談もしてくれませんでした。でも、時間をかけて接していくうちに、少しずつ話してくれるようになったんです。

信頼関係が築かれると、ようやく「この人になら話してもいいかも」と思ってくれる。そのためには、焦らず待つことが大切なんですよ。

就労支援とは何か

早野: よく「就労支援って、就職をさせるためのものなんじゃないか？」と言われるんですが、私はそうではないと思っています。就労支援とは、その人が地域でどう生きていけるかをサポートするものです。就職したからといって、それがゴールではありません。仕事を続けられる人もいれば、辞める人もいます。でも、辞めても「また頑張ろう」と思えることが大事なんです。

生きづらさを抱えている人が「就職してよかった、生きやすくなった」と思えるような支援をしていきたい。だからこそ、私たちはただ仕事を斡旋するのではなく、その人が暮らしていける環境を整える手助けをするんです。

地域とのつながり

「若者たちが地域とつながることも大切ですね。」

早野: そうですね。たとえば、抱樸館福岡の「カフェさんぼみち」^{※2}や箱崎(福岡市東区)にある「居場所カフェ在(aru)」^{※3}は、卒業生がふらっと立ち寄れるようにしています。毎月開催される「きずなの日」^{※4}には私も顔を出します。「在(aru)」の周りに住んでいる卒業生の家を一いきなりピンポンして「元気か？」と声をかけたり(笑)。最初は私がいることで安心して来ていた人たちも、徐々に他の人とも関われるようになっていきます。

こうしたつながりを作ることが、地域に根ざした就労支援の大きな役割のひとつだと思っています。

伝えたいメッセージ

「今回の特集を通じて、読者に伝えたいことはありますか？」

早野: この文章を読むのは、子ども本人ではなく、親や大人ですよ。もし、お子さんが引きこもっていたり、不登校だったりしても、「あなたの家だけの問題じゃないんだよ」と伝えたいです。

「どこに相談したらいいのかわからない」と悩んでいる親御さんは多いですが、実はたくさんの支援機関があります。諦めずにSOSを出してほしいです。

また、社会全体として、若者たちが「孤立しない」環境

を作ることが大切だと思います。そのためには、地域とのつながりや、大人の関わりが欠かせません。

「早野さんは、まるで「お兄さん」的な存在ですね。」

早野: そうかもしれません(笑)。ただ「私が」ということではなく、そんな存在があちこちにあることが大事だと思います。

支援って「この人を救おう」と思ってやるものじゃなくて、結果的に「自分自身も救われている」もののような気がします。

「どんな人ともほどよく目線を合わせ、上からものを言わない雰囲気意識している早野さん。親と子、大人と子ども、支援する人・される人だけではない「ちょっと年上の先輩」「近所のおじさん・おばさん」のような存在が大事なんだと感じます。」

「若者が生きづらさを抱えることは、社会全体の問題」—そんな思いを強くしました。

※1: 場面緘黙
特定の社交的な場面で話すことができなくなる症状

※2: カフェさんぼみち
抱樸館福岡にて毎月第2金曜日開催

※3: 居場所カフェ在(aru)
福岡市東区箱崎の商店街にあるカフェ

※4: きずなの日
居場所カフェ在(aru)でカレー・ぜんざいを各300円で提供 月1回開催



居場所カフェ在(aru) Instagram

特集を終えて 思ったこと 私たちにもできること

「50mをヨーイドンで走るとして、障害物がなく走れる人と、常にハードルが並んでいる人がいるとする。そのハードルを社会が放置していたらどうだろう。ゴールを10m前に置くなり、ハードルを取り除く必要がありますよね。矢野さんは熱く語ってくれました。まずは一歩。「知ること」と「小さな行動からはじめること」は、すぐにでもできそうです。」

寄付や支援

信頼できる団体に少額からでも寄付するなど継続的な支援をする。

社会問題を学ぶ

困難を抱える人々の状況を知ることが第一歩。本を読む、ドキュメンタリーを見る、イベントに参加するなど。

周囲に情報を共有する

問題意識を周りの人に伝えるなど。

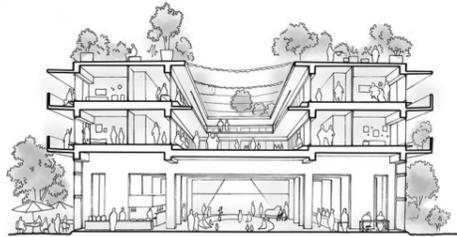
抱樸館を支える会の会員になる

会費は生活困窮者の支援や子ども基金、みんなの居場所づくりに役立ちます。また、隔月で届く会報誌で情報を知ることができます。

グリーンコープでは「困難を抱えた若者たち」の現状をなんとかしようと「子ども・若者支援カンパ」を行っています。

北九州
NPO法人
抱樸より

いよいよ「希望のまち」の建築が始まりました！



希望のまちイメージ図
(提供：手塚建築研究所)

「希望のまちプロジェクト」は、福岡県北九州市に様々な機能を持った複合型社会福祉施設を建設し、そこを拠点に「孤立する人がいないまち」を広げていく取り組みです。誰もが「助けて」と言え、お互いに支え合い、助けられた人がやがて助ける人になれる—そんな「お互い様のまち」を目指します。広がる格差の中で、一人も取り残さない社会をつくるために、ここに来れば、誰もが「居場所と出番」を持ち、誰かの「ホーム」になれる。そんな温かいまちの建築がいよいよ始まりました。

NPO法人抱樸より、進捗報告とメッセージが届きました。

2025年1月14日 「希望のまち」起工式の様子



起工式で挨拶をする奥田理事長



希望のまち
特設サイト



抱樸館を支える会 会員の皆様へ

支える会の皆様には、日頃より抱樸の活動、そして希望のまちプロジェクトにご支援・ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

さて、ご案内させて頂いていた、希望のまちの建築ですが、戦争や円安の影響下、昨年5月の建築事業者の入札不調から10ヵ月の時が経ちました。その間、資金調達のために「希望のまち建築を諦めないクラウドファンディング」を実施させて頂き、全国から5000人を超える方々のご寄付を頂き、目標だった1億円を超えるご支援を賜りました。さらに銀行からの融資も調達できることとなり、ようやく昨年の12月末に2回目の入札を実施したところ、正式に建築事業者が決定いたしました。そして、具体的に建築を始めることができる状況となり、今年の1月14日に起工式を執り行うことができました。

起工式には、これまでご支援を頂いた方々をはじめ、北九州市副市長、社会福祉協議会会長、北九州市議会議員の方々など多くの皆様のご参加を賜り、寒さの中ではありますが、無事に建築の第一歩を踏み出すこ

とができました。

2019年に「希望のまちプロジェクト」として構想が始まってから5年。コロナ禍や様々な社会状況の中、ようやくここまで辿り着くことができました。

いよいよ建築が始まります。ただある意味、建物は器です。器に何を注ぎ込み、誰がそれを飲み、飲んだ者がどのように生きるか・生かされるかが本当の勝負となります。それゆえに、この建築が到達点ではありません。これから始まるのだと襟を正していきたいと思えます。どうぞ、これからもご指導・ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

皆様のご協力とご参加が、このプロジェクトの根幹です。ご一緒に北九州において「わたしがいる。あなたがいる。なんとかなる」まちを創って頂ければ幸いです。本当にありがとうございました。

NPO法人抱樸 専務理事
社会福祉法人抱樸 理事長
森松 長生



「抱樸館を支える会」の会費は、子どもたちへの支援にも活かされています。

みんなの居場所

居場所作り1月 月次報告書より

グリーンコープは子どもたちや地域の皆さんが安心して過ごせる居場所づくりをしています。子どもたちが気軽に立ち寄って遊んだり、宿題をしたり自由に過ごせる場所です。おともと一緒に過ごせます。

熊本県
(人吉市)

子どもの居場所 ひだまり

かるた大会をしました。百人一首、ウンスンカルタ※、人吉カルタの3種類を時間を区切って開催しました。ウンスンカルタは親子で得意な組合員さんが丁寧に教えてくださり、初めてウンスンカルタをした子どもも大盛り上がりでした。



スタッフも子どもたちとカルタをとってみたいと暗記中

※ウンスンカルタ
室町時代にポルトガルの船員たちから伝わったトランプを日本でつくりかえたカルタ



宿題は子ども同士で教え合ったり、スタッフに教えてもらったり

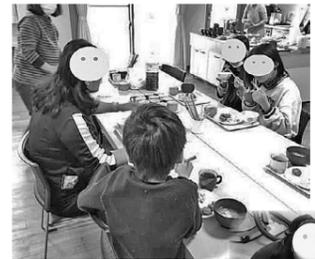
自分で巻いて作る恵方巻



福岡県
(飯塚市)

げんきばりばりよってっ！

ワーカーが持参したダルマ落としで、子どもたちは力の入れ具合を工夫しながら遊んでいます。初めてする子がほとんどで、楽しんでいました。食後は宿題をする子、トランプで遊ぶ子、絵本の読み聞かせを聞いている子など自由に過ごしています。



一緒に食べるとおいしいね♪



30日分の準備から揚げ、ポテトサラダ、味噌汁。おやつは自分たちで作ったクッキー



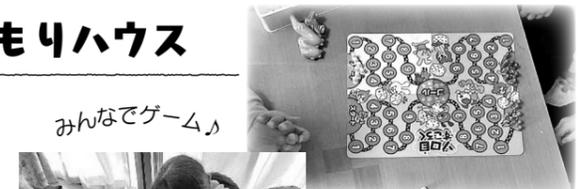
床暖房が気持ちよくて、テーブルよりも床で遊ぶことが多くなっています♪



福岡県
(那珂川市)

片縄げんきもりもりハウス

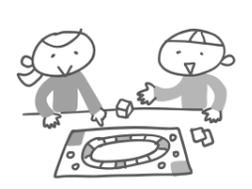
遊びに来た子の多くは、仲良くゲームをしたり、宿題をしたりして過ごしています。パズルやぬりえ、ロボットを組み立てて遊ぶような個人で遊ぶものも、お友達を誘ってきて一緒に遊んでいる様子が見られました。



みんなでゲーム♪



宿題のようす



ぬりえ

抱樸館福岡に来てみませんか？

●グリーンコープ生協の組合員で見学を希望される方は、所属生協を通じてお申し込みください。

●見学を希望される方(一般)は、次の手順でお申し込みください。

①抱樸館福岡にお電話ください。

☎092-624-7771

②申込みフォームに必要事項を記入の上、送信してください。

(申込みフォームは右上の二次元バーコードからアクセスしてください)

見学申込
フォーム



●見学の申込みについて

実施日 月～金(祝日を除く)

所要時間 11:00～12:00(相談可)

費用 1000円/1人(別途お弁当をご希望の方はご相談ください)

定員 20人/1日

申込み締め切り 希望日の2週間前まで

※日程の変更をお願いする場合があります。

※お子さん(11歳まで)を同伴の場合、お子さんの見学料は必要ありませんが、昼食は各自ご準備下さい。また入居者に迷惑がかからないよう保護者及び同行者でご注意下さい。

会報誌の感想をお聞かせください

会報誌4月号はいかがでしたか？

編集部では、今後の誌面づくりに活かすため、アンケートを実施することになりました。すべての項目にお答えいただく必要はございませんので、お気軽にご協力いただけると嬉しいです。

また、お寄せいただいたご意見や感想は、誌面でご紹介させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

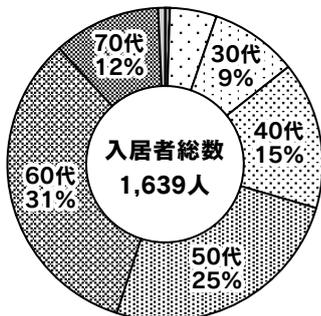
みなさまからのご回答を心よりお待ちしております！



アンケート
フォーム

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2025年2月末までの入居者数



	人数	割合
10代	14	0.9%
20代	95	5.8%
30代	140	8.5%
40代	253	15.4%
50代	410	25.0%
60代	515	31.4%
70代	196	12.0%
80代	16	1.0%
計	1,639	100%

2025年2月末現在の入居者

67名(定員81名) 男性64名、女性3名

2025年1～2月の新入居者数・退居者数

新入居者数12名 退居者数13名

(注:2月末までの入居者数1,639名は、2度、3度入居した人も1名と数えています)

抱樸館熊本・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員

以下の18団体が正会員です。
グリーンコープの各単協(15生協)
グリーンコープ連合会
NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2025年2月末の賛助会員は、以下の通り
グリーンコープの共同購入組合員 11,539名
グリーンコープの店舗組合員・一般の方 149名
企業賛助会員 97社

その他(抱樸館の所在地)

抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年5月開所
抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年9月開所
抱樸館下関:新たに開設を検討中
抱樸館熊本(熊本市中央区) 2018年12月開所

抱樸館を支える会 賛助会員・企業賛助会員 募集中!

◇一般の方、グリーンコープの店舗組合員

1口1,000円の賛助会費を何口でも申込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

◇企業賛助会員

企業賛助会員は、会費が1口10,000円です。出来れば3口(30,000円)以上でお願いします。申込みは、右記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号
社会福祉法人グリーンコープ内

☎ 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)
〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)
〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本 (電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522)
〒860-0811 熊本市中央区本荘